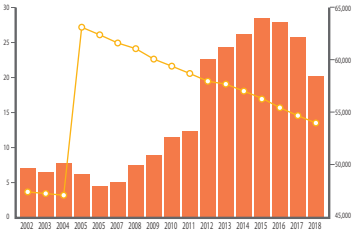
代表質問

今田 勇雄 議員
（灘会）



■七尾市の財政運営について

質 今後の震災復興事業の実施に伴う財政運営への影響についての考えを伺う。

また、本市の経常収支比率と財政調整基金の現状並びに今後5年間の見通しについて、市長の考えを伺う。

答 令和7年度の一般会計当初予算は、骨格予算とした前年度の2.2倍となる602億9，000万円となり、そのうち災害関連費は約46％に当たる278億円余りとなる。特に、災害復旧工事が本格化する中、どうしても市債発行額が大きくなることから、今後の公債費の増加に備えて、令和6年度3月補正予算で減債基金に7億2，000万円を積み立てることとしている。

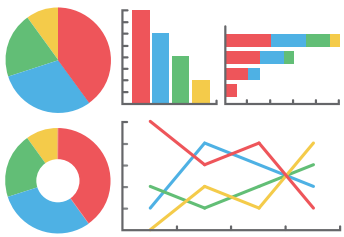
また、減債基金のみならず、将来の負担をすべき財政支出の財源の確保をすることや、必要な事業を見極め、事業を行うことで、健全な財政運営に努めてまいりたいと考えている。

経常収支比率は、直近の令和5年度決算で95.5％である。今後は公債費が増えることから、この比率においては当面改善する要素は少ないと見込んでおり、一方で、財政調整基金は令和6年度末残高で39億円余りとなる見込みであり、震災前、令和4年度の残高とほぼ同じ水準となる見込みである。

今後も引き続き、復旧・復興に必要な財源を国や県に対して、しっかりと働きかけるとともに、基金の積立やふるさと納税の拡大に取り組むことで、自主財源の確保にも努め、持続可能な財政運営に努めてまいりたいと考えている。

代表質問

永崎　陽 議員
（新政会）



■令和7年度当初予算について

質 「ふるさと七尾の再生と創造的復興に向けて」をテーマに予算編成した市長の思いを伺う。

答 令和6年能登半島地震から1年余りが経過し、震災からの復旧・復興を止めることなく、令和7年度はその取り組みをさらに加速していく必要があると考えている。早期でかつ着実な復旧と、市民が将来に向けて希望を持てる復興を成し遂げる予算である。

まずは、被災した市民の皆様方が一日も早く、日常生活を取り戻すことができるよう、家屋の修繕や生活再建への支援を継続するとともに、災害公営住宅の整備を進める。

また、事業者が早期になりわいを再建できるよう、各種支援を行うほか、和倉温泉運動公園の復旧や様々な復興事業を推進しながら、観光誘客を行い、和倉温泉のにぎわい創出に取り組んでいきたい。

なお、震災支援を通じて多くの方に、全国から能登へ足を運んでいただいた。今後はこの関係を大切にし、様々な事業を展開することで、関係人口の拡大を図るとともに、国際交流なども活発にすることによって、将来的に観光面でのインバウンドのみならず、産業・経済・文化においても大きな効果が期待できると考えている。

こうした取り組みを通じ、創造的な復興と持続可能な発展により、誰もが誇れる、市民にとって魅力的なまちの実現を目指していきたい。